

## 令和7年度 日本大学大学院特別講義（英文学専攻）

### 【アメリカ文学分野】

日時：11月27日（木）4・5時限目、12月4日（木）4・5時限目、  
場所：文理学部3号館3階3309教室  
講師：波戸岡 景太先生（法政大学文学部教授）  
題目：原作化するアメリカ文学：アダプテーション理論の現在地

各時限の講義テーマ：

- 1時限 アダプテーション理論入門
- 2時限 映像化されてきたアメリカ文学作品
- 3時限 原作化することの利点と弊害
- 4時限 アダプテーション理論の現在地

講義全体の概要：

映画化や舞台化という翻案行為（アダプテーション）は、原作となった文学作品にも少なからぬ影響を与える。たとえば、映画化によって「原作化」した書籍は知名度を上げ、結果的により多くの読者を獲得するかもしれないし、反対に、映像により生じた視覚的バイアスのせいで評価を下げ、新しい読者を逃すかもしれない。つまり、アダプテーションを考える上では、「映像化」と同じかそれ以上に、「原作化」についての議論が重要になってくるのである。

本講義では、リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』（2006）と波戸岡『映画原作派のためのアダプテーション入門』（2017）を起点に、映像化され、原作化してしまったアメリカ文学作品の分析方法と、現時点でのアダプテーション理論の争点を解説する。具体的には、1時限目に「アダプテーション」という概念についての解説を行い、2時限目に、これまで映像化されてきた多くのアメリカ文学作品を文学史に沿って概観する。3時間目は、「原作化」にともなう利害と弊害を実例とともに解説し、4時間目は最新のアダプテーション理論を紹介しつつ全体をふりかえり、題目にある「原作化するアメリカ文学」を総括する。